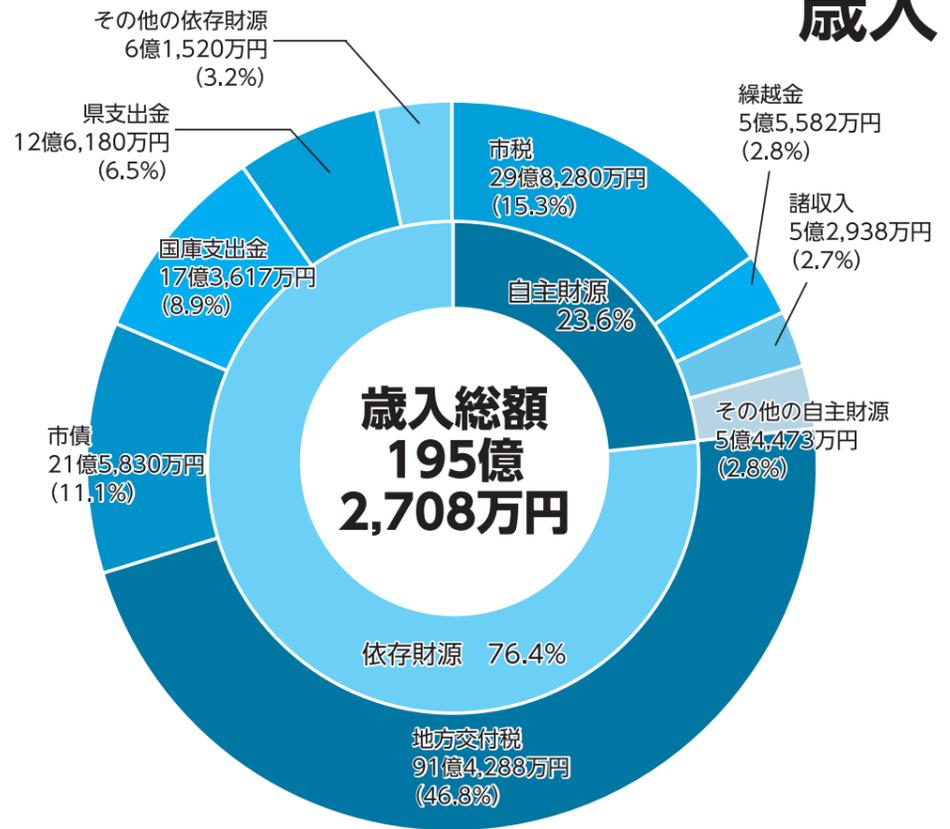
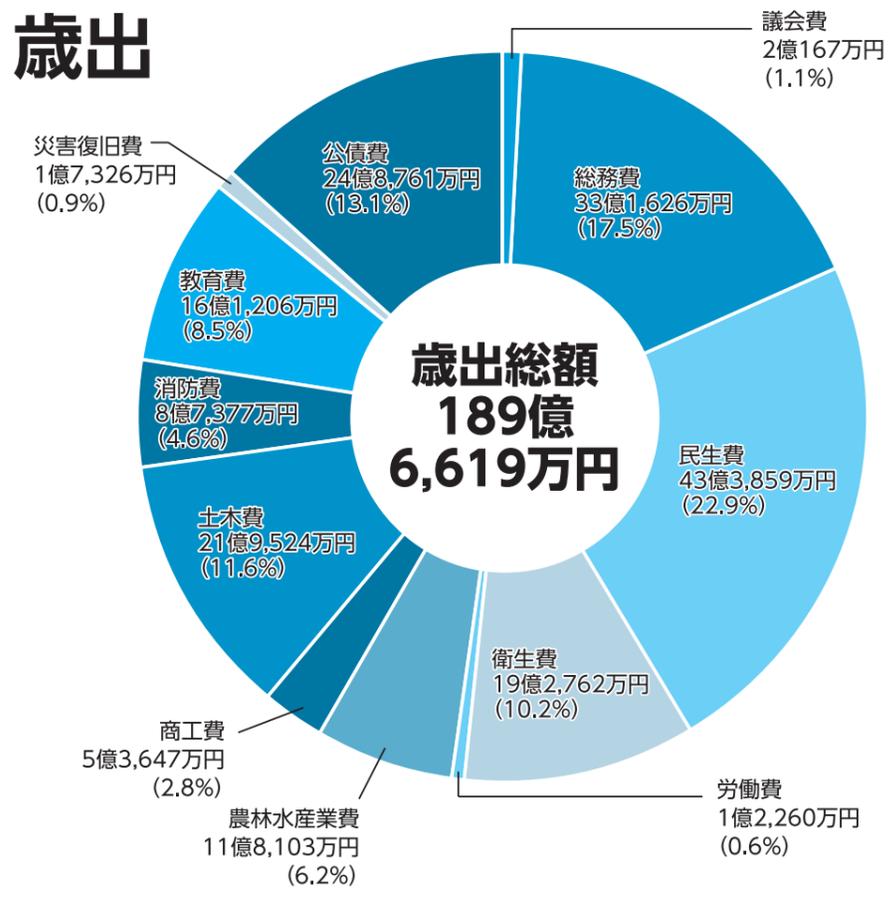


平成24年度 市の決算状況

歳入



歳出



※各数値は、1万円未満および0.1%未満を四捨五入しているため、合計金額が一致しない場合や合計割合が100%にならない場合があります。

8月30日から9月12日まで開かれた市議会第3回定例会で、平成24年度の一般会計など9会計の決算が認定されました。ここでは、決算の内容を財政の健全度を示す各種指標と併せて紹介します。(金額は、1万円未満を四捨五入しています)

平成24年度特別会計・企業会計の決算状況

会計名	収入額	支出額
国民健康保険(事業勘定)	39億9,107万円	37億1,710万円
国民健康保険(診療施設勘定)	3億3,616万円	3億1,375万円
後期高齢者医療	2億2,895万円	2億2,682万円
公共下水道事業	5億5,508万円	5億1,512万円
農業集落排水事業	7億1,630万円	6億9,567万円
浄化槽事業	4,804万円	4,064万円
水道事業	収益的収支	5億5,391万円
	資本的収支	1億1,906万円
西根病院事業	収益的収支	6億9,771万円
	資本的収支	1,958万円

歳入 前年度に比べ市債額の比率が1.5%の減少

24年度の一般会計の歳入(収入)は、195億2708万円でした。一番多くの割合を占めているのは、地方交付税の91億4288万円(46.8%)で、前年度より2.7%多くなっています。これは、地方交付税に含まれる震災復興特別交付税(3億8178万円)が大幅に増加したためです。続いて2番目に多いのが、市税の29億8280万円(15.3%)、前年度比0.7%増、3番目が、市債の21億5830万円(11.1%)、前年度比1.5%減でした。歳入のうち、自主財源は、46億1

歳出 最終処分場や凍上災に係る費用が大幅な増加

一般会計の歳出(支出)は、189億6619万円でした。歳出の中で、前年度に比べ、大きく増加したのが衛生費(19億2762万円、前年度比2.1%増)で、これは、24年12月4日に開所した一般廃棄物最終処分場の建設によるものです。その他には、市道凍上災害復旧事業の増加に伴い、災害復旧費が、1億4800万円増の1億7326万円となりました。

なお、教育費は、松尾地区コミュニティセンター整備事業が完了したため、4億1223万円減の16億1206万円(8.5%)。公債費は、償還終了に伴って、8073万円減の24億8761万円となりました。グラフに記載はありませんが、財政の弾力性を示す経常収支比率は、前年度より2.3%改善し、84.4%、財政力指数は、前年度と同じ0.29でした。また、地方債残高は、前年度から1億1224万円減り、172億4535万円となりました。市では、今後も一層の経費削減などに努め、効率的な行政運営を目指していきます。詳しくは、市役所市長公室財政係(☎内線1217)まで。

用語解説

- ▶自主財源=市が自主的に収入できる財源
- ▶依存財源=国や県から交付される財源
- ▶復興特別交付税=東日本大震災に関する災害復旧事業や復興事業などのために交付される特別交付税
- ▶経常収支比率=市が自由に使うことのできる予算のうち、避けられない必要な経費(人件費や公債費など)が占める割合。値が低いほど、独自の政策のために使えるお金が多いことを示します。
- ▶財政力指数=地方交付税交付金の交付に関わる指数。数値が高いほど財源に余裕があるとされます。

財政の健全度を示す指標

- ①実質赤字比率 一般会計など税金が主な収入源の会計収支が、標準財政規模(※)に占める赤字の割合。本市は実質赤字なので、該当はありません。
- ②連結実質赤字比率 企業会計を含む全会計の赤字額が、標準財政規模に占める割合。本市は実質赤字や資金不足の会計はありません。
- ③実質公債費比率 地方債の償還金を標準財政規模で割ったもの。本市は前年度より0.8%低い12.2%です。
- ④将来負担比率 現在抱えている負債の大きさを標準財政規模で割ったもの。本市は、前年度より21.3%低い8.1%です。
- ⑤資金不足比率 下水道など公営企業の資金不足を事業の規模と比較したもの。本市は該当ありません。

※標準財政規模とは
市が、標準的な状態で通常収入されるであろう経常的一般財源の規模を示すものです。標準税収入などに普通交付税を加算した額。財政の指標となる①から⑤までの比率を計算するための分母となる重要な数字です。24年度の市の標準財政規模は、123億4,567万円です。